

KiKiの広場

2022年 10月 1日
cafe NO.144
KiKi



毎週のように台風に振り回され、朝晩と日中の寒暖差が急に激しくなった9月の終わりでしたが、はたして10月は、どんな月になるのでしょうか？1年で一番過ごしやすい季節のはずですが、予報ではまだまだ気温の高い日が続きそうです。台風被害で苦しんでおられる方もたくさんいる中、コロナ感染もそうですが、少しでも早く落ちていて、心穏やかに気持ちよく過ごせる日がくることを心から願っています。ゆっくりと秋の気配を感じながら、色々な秋を楽しむことができれば・・・と思います。

10月の予定

休館日	11日(火)
休業日	毎土・日・月曜日
臨時休業日	26日(水)



「気まぐれシェフのKiKiオリジナルシフォンケーキ」

「キャラメル&ナッツシフォンケーキ」・・・300円

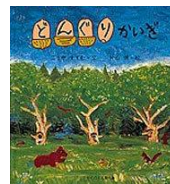
ふんわり甘いキャラメルと、香ばしいナッツの食感がたまりません！
めっちゃうちゃ美味しいですよ！！

今月のお気に入り・・・「秋を楽しむ絵本」

～「ほら、きのこが・・・」「どんぐりかいぎ」「まゆとぶかぶかぶー」「もいのこびとたち」「落ち葉」「きんいろのとき」などなど～



「ほら、きのこが・・・」は、いろいろなきのこに出会える美しい写真絵本です。不思議な世界に踏み込んだようなたくさんのきのこたち。写真に添えられている越智典子さんの言葉が、きのこの生態を優しく説明して、またとってもポジティブな気持ちにもさせてもらえます。「どんぐりかいぎ」は、みかんなどの柑橘類や柿などに表と裏の年があるように、どんぐりの木の「なりどし」と「ふなりどし」をわかりやすく教えてくれます。片山健さんのダイナミックな絵から、自然の仕組みの不思議さ、力強さ、そして、森の生き物たちの切実な思いや様子が伝わってきて、自然の厳しさが胸に迫ります。



今月の本棚・・・「いろいろなおおかみが出てくる絵本」

～「おおかみのおなかのなかで」「3びきのかわいいオオカミ」「おおかみグーのはずかしいひみつ」「きこいとおおかみ」など～



「赤ずきん」や「おおかみと七ひきのこやぎ」など昔ばなしによく出てくるおおかみは悪役が多いですが、ちょっと変わったおおかみやかわいいおおかみなど、絵本には色々なおおかみが出てきます。「おおかみのおなかのなかで」は、いきなりねずみがおおかみに食べられてしまうところから始まります。いったいどうなるの？という展開の連続で、最後の最後まで「エーッ?!」と驚かされます。ジョン・クラッセンの挿絵が、シュールなお話とピッタリあって何とも言えない楽しくて、実はとても考えさせられる絵本です。「3びきのかわいいオオカミ」は、「3びきのこぶた」のオマージュです。オオカミたちは弱々しくて可愛いんですが、なにしろオオブタが想像の上をいく悪人ぶりで、ドキドキしながらのラスト。最後にオオカミたちが考えた家とは？「3びきのこぶた」とは違う解決法に、ほっこりさせられます。



ほっとブレイク

イベントホール 癒しの空間 ほっとスペース その2・・・今回ご紹介する本は、「赤い鳥復刻版」シリーズです。鈴木三重吉が1918年に創刊・主宰した「赤い鳥」は、森鷗外・島崎藤村・芥川龍之介・北原白秋・高浜虚子・泉鏡花・有島武郎・徳田秋声らの賛同を得て、彼らの投稿も含め、民話や昔ばなしを童話として芸術的に高めることができたと言われていました。その後、菊池寛・西條八十・谷崎潤一郎・三木露風らが作品を寄稿し、投稿欄の中には、金子みすゞや岡本太郎・大岡昇平のように、作家や芸術家として将来活躍する名前を見つけることもできます。

同時に童謡も誕生しました。童謡が生まれる前の唱歌は、「ちょうちょ」や「蛍の光」「仰げば尊し」など、外国の曲に日本語の歌詞をつけた国家によって作られた曲でした。西條八十の童謡詩に成田為三が作曲した

「カナリヤ」は、大きな反響を呼び、大人が作った子どもの為の芸術的な歌としての童謡普及運動、あるいはこれを含んだ児童文学運動は一大潮流となっていき、「赤い鳥」が刺激となって次々と子ども向けの雑誌が出版されたそうです。表紙の絵も素敵です。

